

会員ニュース

子どもと教科書狛江の会
発行責任：和田哲子
03-3488-9558

第59号

2019年
8月26日

主な
内容

・教科書採択 行われる

教科書採択 行われる

2020年度から小・中学校で使用

8月8日午前10時から市役所4階特別会議室で2020年から使用される小・中学校・特別支援学級の教科書採択が行われました。

■結果

| 教科 | 出版社 | 教科 | 出版社 |
|-------|-----|-------|-----|
| 国語 | 光村 | 音楽 | 教芸 |
| 書写 | 光村 | 図工 *2 | 日文 |
| 社会 *1 | 日文 | 家庭 *3 | 東書 |
| 地図 | 帝国 | 保健 *4 | 光文 |
| 算数 | 学図 | 英語 *5 | 学図 |
| 理科 | 東書 | 道徳 | 東書 |
| 生活 | 東書 | | |

- *1 社会：現在は東書。日文は4年の災害に関する単元で狛江の水害のことが扱われていることが評価されました。このことは校内調査研究資料、教科書調査研究資料、教科書選定資料で指摘されていたほか、市民アンケートにも記載がありました。
- *2 図工：現在は開隆堂。日文の方が教室内での実現可能性が高い、という評価でした。
- *3 家庭：現在は開隆堂。東書の方が小学生らしい、仕事の手順がしっかりと分かる、自分でやる気がおきる、という意見でした。
- *4 保健：現在は東書。光文の方が自分のこととして考えやすい、一単元の中でのま

とまりがよい、自分自身の体のこと、心のことをざわつかないで受け止められるという評価でした。「自分ごととしてとらえやすいように・・・」という表現は教科書調査研究資料と教科書選定資料にもありました。

*5 英語：とても時間がかかりました。

■審議の様子

10時に始まって、途中1時間ほどの休憩を挟んで3時40分までほぼ4時間半、さすがにくたびれました。今回も委員の皆様はとても丁寧に真剣に教科書を読んでいらっしゃるのを感じられて感服しました。特に初めて正式の教科になる「外国語(英語)」については、すでに塾などで学んで出発の時点で差がついている現状など現場の様子がよく分からない中で、どれがふさわしいか、せめて英語嫌いにならないように、とさまざまな配慮のある発言が続きました。

せっかく選定協議会の委員長、副委員長さんが参加していたのですからもっと現場の意見を求める議論になってもよかったかな、とは思いました。

その後、中学校はすべて現在のものを継続使用、特別支援学級は設置校からの届け出をそのまま採択、でさっさと終わり、他の議案も含めてすっかり終わったのは4時20分でした。一連の資料の情報公開請求をして帰りました。

■公開された資料から分かったこと。

校内調査研究資料(教科は国語、社会、英語、道徳に絞りました)、教科書調査研究資料、教科書選定資料、それぞれの委員会の委員名簿と会議録、教科用図書採択の概要についてという教育委員会から各学校への指示文書、市民アンケート、など請求したものはすべて公開されました。

その「概要」の中の5.資料作成の際の留意事項(全体的に)という項目で

調査研究資料(様式 1・2・3)の作成の際、教科書を比較した表現は避け、教科書それぞれの特色等に留意して具体的に事実のみを記述するものとする。

という記述の後に前回、前々回は

また、教科書の検定を行っているのではなく、教育委員会が採択を行うための資料を作成していることを意識して作成する。

●良くない例

・〇〇社の題材が、〇〇社の題材より取り扱いやすい。(比較している)

・〇〇という題材の挿絵について児童がイメージしやすくてよい。(主観的意見が入ってしまっている)

・題材について、道徳的価値に気づきにくい。(主観的意見が入っている、検定を通っている教科書であり基本的にはマイナスの意見はないはず)

という記述があったのですが、今回はこの部分はなくなっていました。

それでも各委員会の会議録を見ると、教科書の中身を議論するよりもいかにこの様式に合致するように書類を作るかに腐心している様子が見てとれます。

■市民アンケートは73件

全体で73件あり、1件に複数の意見を書いてあるものもあるので、集計すると、小学校に関するもの68件、中学校に関するもの

14件、現場の意向を尊重してというもの15件、ワイロ問題に関するもの21件でした。

小学校では英語に関するものが一番多く23件、さまざまな条件が整わない中での教科化、それに伴う評価は子どもたちへの負担が大きく、格差を生じて英語嫌いにならないければよいが、という心配が多くありました。次いで道徳は20件、これにも教科化そのものと評価に関しての疑問が示されていました。社会については11で、東書について政権寄りの姿勢を危惧するものがありました。

中学校では社会(歴史、公民)に関して育鵬社を薦めるもの1、疑問を示すもの2、学び舎を薦めるもの2、と来年の新学習指導要領による採択に向けて関心のありどころが垣間見えています。

気になったのはワイロ問題に関するものが21件あったことです。6月議会での辻村ともこ、三宅まこと議員の発言につながるものと思われませんが、これだけの数の意見が出ているからには、このことについて、狛江ではどのような事実があったのか、あるいはなかったのか、教育委員会として事実の説明と、見解を示す必要はあるかな、と思いました。同時に発言のあった採択のための教育委員会のインターネット中継についての意見は全くありませんでした。



来年は新学習指導要領による中学校の全教科の採択が行われます。引き続き教科書への関心を持ち続けてまいります。